



「未来の主人として眞の父母の夢をなす成和の若者になれ」



天曆7月16日(陽8,29)2015青年学生世界総会閉会式:眞の父母様のみ言葉



み言葉を語られる眞のお母様



2015青年学生世界総会後の団体記念撮影

2015青年学生世界総会閉会式が天曆7月16日(陽8.29)午後5時、天地人眞の父母様に侍り統一家の主要指導者と全世界から来た青年学生と食口が参加して、天宙清平修練苑大講堂で開催された。この日の眞の父母様のみ言葉を要約・整理して紹介する。

天の父母様と眞の父母様に侍る国連となれ

皆さんは70カ国以上から集まった成和の若い勇士です。皆さんは、実質的な未来の主人になります。今年は特別です。私たちは今、お父様聖和3周年を一日後に控えています。これまで世界各地で統一家の食口が多く悔い改めて精誠を捧げたことでしょう。

今年は韓国独立70周年を迎える年であり、国連創設70周年を迎える年です。国連はこれまで世界のために多くの仕事をしました。1次的には6・25韓国戦争の時、国連軍が参戦しなければ、今日の韓国はなかったでしょう。摂理の中で天は国連を創設し、この国と眞の父母を保護されたのです。

しかし、国連に登録された国は、自国の利益だけを考慮して、全体的な天の摂理を知りません。中心がないため、いくら頭を突き合わせて一つの方角に行こうとしても、一つになることができません。今年、欧州を巡回し

ながら、国連(事務局)に立ち寄り、「国連で神様に侍る運動が起きなければならぬ」と言いました。中心に天の父母様、眞の父母様に侍る国連にならなければならないと言いました。

米国を通して人類を救おうとされたお父様

米国は、1970年代から弱り始めました。民主世界の代表国である米国をしっかりとした磐石の上に立てておかなければ、世界平和と統一は難しくなるため、お父様は韓国に多くの事情がありましたが、世界と人類を考えて米国に渡って行かれ、40年間、多くの歴史を残されました。

1970年代、米国は世界の中心国という自負心と個人主義によって、病んで行きました。天が2百年間、ご苦労され育てて来られた米国は、家庭破綻、青少年問題、薬物問題、思想問題で、これ以上世界を考えることができず、自国の利益だけを考慮して座り込んでいました。

そんな米国に対して、お父様は「医師であり消防士として来た」と言われ、50州巡回講演をされ、上流階級、政界、財界人を目覚めさせられました。草創期に多くの知識層がお父様を尊敬しました。そのように支持勢力が大きくなる状況で、将来を見通せない政治家は狭い考えでお父様を迫害しました。しかし、米国を通して全世界の人類を救おう

とされる眞の父母様であったために、厳しい環境でも堂々と出て行かれました。

6000年聖書歴史と蕩滅原則

摂理歴史は、皆さんが知らないうちに、全く緊迫して流れてきました。考えてみてください。神様は眞の父母になろうと人間を創造されました。人間が神様のみ言葉の通りに従い待ちながら、よく成長していれば、今日のような世界にならなかったことでしょう。人間の過ちは神様に重い荷物を背負わせました。

聖書で言う6000年の摂理歴史は、蕩滅なしには前進することはできません。皆さんは原理を通して、それを学びました。2千年前、イエス・キリストが誕生するまで、天は4千年間苦労されました。選民として選んだイスラエル民族を国が成立するまで育てる過程が順調でなかったため、4千年もかかったのです。

そのように苦労され努力されて、ひとり子イエス・キリストを送られました。イスラエル民族はもちろん、ユダヤ教、マリアまでイエスに協力できませんでした。蕩滅原則があることを皆さんは知らなければなりません。(2面に続く)

真の父母様に似た愛の化身体となれ

私たちは、真の父母に侍ります。真の父母によって誕生した二世圏である皆さんは、世の中とは異なります。皆さん全てがよく成長することを願います。ここに集まった3千5百人の成和青年は、真の父母様に似た道であり、真理であり、生命であり、愛の化身体とならなければなりません。

皆さんは受けようとだけ考えてはいけません。真の父母様が示されたように、ために生きる真の愛を実践しなければなりません。分け与えても不足さを感じ、もっと与えたい心の姿勢、分かち合いの環境を作るべき責任が皆さんにあります。それが、一つの世界に行く道です。

皆さんはピュアウォーター(pure water 澄んだ水)です。澄んだ水は停止してはいけません。流れて、多くの生命体を誕生させなければなりません。真の父母様の圏内には、泥水があってははいけません。すべてが澄んだ水にならなければいけません。つまり、全世界人類が真の父母様に侍らなければいけません。

ラジオやテレビで、鮮鶴平和賞の表彰式が放映されたのを見ましたか。真の父母であるため、国が考えられないことを以前から考えてきました。人類の食糧問題と地球温暖化問題などを誰よりも心配し先頭に立って、これを改善するために努力された方が真のお父様です。神様の願いを成就し、人類の恨を解放し、本来、神様が創造された理想世界を作るために生涯を努力して来られました。

真の父母様の夢をかなえる成和の若者

今、全世界は当面する問題を解決できずに、主人になりたがっています。より多くのものを持った大きい国がもっと持とうと戦争を準備し、武器を作っています。平和な世界、一つの世界に進む道にそんなものは必要ありません。ですから、聖書でも「剣や槍を溶かして鋤と鎌を作れ」と言います。

人類は不必要なことにお金を浪費しており、地球は今、疲弊に苦しんでいます。中国だけでなく、米国でも砂漠化が進んでいます。北極の氷が溶けて海面が高まっており、生態系が破壊されています。人間の無秩序は自然を破壊し、海を汚染させています。海に必要なサンゴ礁が死んでいます。

これを考える時、じっと座ってばかりしていいでしょうか。解からな

い人を教育する必要があります。私はすべきことが多すぎます。皆さんが手伝ってくれることを願います。夢を持ってください。「私は真の父母様が願われるある面で大家になる。大学者になる。有名になる」こうした夢を持って真の父母様の夢をかなえる成和の若者となることを願います。

天のビジョン抱き国と世界を率いる未来指導者

2015青年学生世界総会閉会式は、権仁成ワールドCARP会長の司会で、真の父母様の入場、敬礼、花束奉獻、鮮鶴合唱団の祝歌、希望奉獻、真の父母様のみ言葉、世界平和統一家庭連合タナカ・トミヒロ日本副会長の億万歳三唱、記念撮影、真の父母様退場、柳慶錫韓国会長と宋龍天日本総会長の激励の辞、権仁成ワールドCARP会長のVision2020青年学生アジェンダ発表、個人目的奉獻、通声祈祷、閉会宣言などの順で進行された。

柳慶錫韓国会長は激励の辞で「ここに集まった3千5百人の青年学生が『天一国主人になる』と決意して一つになれば、未来世界は皆さんのものである。真の父母様のみ言葉の中で『私』のアイデンティティを見だし、天の願いを叶える成和青年になることを願う」と述べた。

続いて、「未来に向かって進むために、明確な人生の目的がなければならぬ」とし、「胸深く天の願いを抱いて、真の父母様に似た愛の化身体として天のみ旨をなすために前進することを決意するこの時間になることを願う」と訴えた。

宋龍天日本総会長は「真のお父様は、生涯青年の人生を生きられた。誰よりも大きな夢で挑戦を乗り越え勝利された。こうした真のお父様のような生を今、真のお母様が生きておられる。真の父母様に会った皆さんは、この国と世界を導く偉大な指導者となるだろう。天のビジョンを抱いて皆さんの国家と世界を新たにする未来の主役になることを願う」と、参加した青年学生を激励した。

一方、権仁成ワールドCARP会長はアイデンティティ、一つの兄弟、教育、伝道、真の家庭運動、南北統一、世界平和、環境保護などのVision2020青年学生アジェンダを発表し、青年学生は個人別Vision2020の目標を書いて奉獻する時間を持った。〈記事提供：企画広報局〉



1.花束を奉呈される真のお母様

2.統一家庭連合青年学生の未来献呈と一緒に、記念撮影される真のお母様

3.世界統一家庭連合の青年にみ言葉を語られる真のお母様

4.未来の主役になることを約束し、億万歳三唱する場面

「ピースロード」探訪・フォーラム・セミナー・シンポ 韓米中で進行

世界平和トンネル財団(理事長チェ・ユンギ)は創設者・文鮮明天地人眞の父母宇宙聖和3周年を記念して「国際平和高速道路」を建設し、人種、文化、宗教、国家の壁を越えて和解と疎通の文化を定着させ、地球村の平和と繁栄をなし遂げようという趣旨で「ピースロード(Peace Road)」探訪・フォーラム・セミナー・シンポを、韓国・米国・中国で行なった。ピースロードは眞の父母様の遺業を相続した汎世界的な平和運動である。

ピースロード

眞の父母様の遺業相続のための世界的平和運動

世界平和トンネル財団が最初に企画した記念行事である「ピースロード探訪」は、天曆4月10日から17日まで(陽曆5.27~6.3)の8日間、眞の父母様が歩まれた平和の道に従おうとするチャン・テイク韓国外交協会会長、チョン・スン前農林食品部次官、イ・グァンセ前統一部次官、オム・イクドン KCC建設顧問ら28人の国内指導者が参加して、ラスベガスで行われた。

探訪団を率いたキム・ビョンス世界平和トンネル財団副理事長は、行く先々で聖別する気持ちで国内指導者を導いた。探訪3日目の天曆4月13日(陽曆5.30)、探訪団は「眞のお父様宇宙聖和1000日記念式」に出席し、眞のお母様のみ言葉と祝福メッセージを聞いた。また、行事を終えた後には「2015ピースロード世界出発式」に出席した。

チョン・テイク韓国外交協会会長は、「平和のビジョンを持つ団体や機関は多いが、世界平和トンネル財団のように実践するところはあまりない」とし、「皆さんがこのようなビジョンを実践できる基盤になってくれることを願う」と述べた。

二つ目の記念行事である「ピースロードフォーラム」は天曆5月2日(陽曆6.17)午前7時、ソウル汝矣島63コンベンションセンターで80余人の各界指導者が参加して開催された。ピースロードフォーラムは、眞の父母様が唱えた「ピースロード」プロジェクトの一環である韓日海底トンネルとベーリング海峡トンネルのビジョンを実現するために、国内指導者と世界指導者を教育してコンセンサスを拡大するために2012年9月から行なわれている。

15回目を迎えたこの日のフォーラムには、特にイ・ヨンソプ前交通部長官を招待した。イ長官は、中国の浮上が韓半島に及ぼす影響について分析し、「私たち自ら反省して準備すれば、未来の大韓民国がアジアと世界の中心国家になる」と述べた。フォーラム参加者はピースロードに込められた眞の父母様の平和思想とビジョンに共感し、共に協力することを約束した。



1.ラスベガス国際平和教育院で記念撮影するピースロード探訪団
2.第1回ピースロードシンポジウムに参加する各界指導者
3.第1回ピースロードシンポジウムの全景



眞の父母様の平和思想とビジョン実現運動を継続

世界平和トンネル財団傘下のピースロードアカデミー主催「2015年大学生ピースロード探訪」行事が天曆5月22日から26日まで(陽曆7.7~11)の4泊5日間、韓国学生と日本留学生など32人が参加して行われた。韓日大学生は北東アジアの未来を考え、中国・大連から韓半島北西端にある丹東を経て北東端の図們に至る1460kmの大長征を巡礼した

ソウル、延世大、鮮文大など国内20の大学に在学中の韓国学生と日本学生らは天曆5月11日(陽曆7.7)、航空便で中国・大連国際空港に到着し、安重根記念館で結団式を持って探訪の道に上がった。探訪団は東北3省の抗日闘争地と朝鮮族の遺跡を見学し、中間地点で白頭山徐波コースを選んで徒歩で民族の聖山である白頭山に登り、韓半島と北東アジアの平和を念願する儀式をした。

延世大学校心理学科のコポリ・クニカ学生は「韓半島統一は南北だけの問題ではなく、韓国と日本と中国と一緒に調和して生きていくことができる我々すべての課題だと思った」とピースロード・プロジェクトへの支持と共感の意を伝えた。

一方、世界平和トンネル財団とセヌリ党統一委員長であるイ・ガンフ議員と共同主管した「2015第1回ピースロードシンポジウム」が天曆6月21日(陽

曆8.5)午前10時、ソウル汝矣島の国会議員会館第2小会議室で開催された。「分断70年南北対立、ピースロード(Peace Road)で解く」をテーマに開かれたこの日のシンポジウムには、チェ・ユンギトンネル財団理事長、チョン・テイク韓国外交協会会長、ファン・ジナセヌリ党事務総長、ヨ・ヒョング国土交通省第2次官をはじめ、各界指導者70人余りが参加し、イ・ガンフ国会議員とユ・イルホ国土交通省長官がそれぞれ祝賀メッセージを送った。

チェ・ユンギ理事長は、記念式の開会の辞で「私たちは北朝鮮が経済を再建して未来を開拓するにおいて、核兵器開発よりも南北協力がより希望的だという事実を理解すべき」とし、「韓半島縦断鉄道の連結は、韓民族共生共栄の道であり、ピースロード構築の中心軸であり平和統一の強力な動力になる」と強調した。

記念式後は、チョン・テイク会長が座長を務めて主題発表と討論時間を持った。アン・ビョンミン韓国交通研究院ユーラシア北朝鮮インフラセンター所長が、「韓半島縦断鉄道(TKR)連結のための主要な懸案と今後の推進方向」というテーマで、チョン・ミョンチェ世宗研究院副院長が「韓国の生存戦略-広開土プロジェクト」というテーマで問題提起した。世界平和トンネル財団は、眞の父母様の平和思想とビジョンを実現するための平和運動を「ピースロード」というテーマで持続的に展開していく計画である。<記事提供:世界平和トンネル財団>

世界平和青年連合真の父母様の統一ビジョンと純潔な真の家庭のメッセージ伝播

天宙聖和3周年を迎え青少年・青年大学生・一般市民対象に記念行事開催



世界平和青年連合(以下、青年連合)は、文鮮明天地人真の父母天宙聖和3周年を迎え「2015家和萬事性キャンペーン」と「2015青少年仮想統一発表大会」などの記念行事を開催し、現在、統一部の「2015民間統一運動活動支援事業」に公募して選ばれた「第1回統一写真コンテスト」を進めている。

「2015家和萬事性キャンペーン」延べ1000人参加

天宙聖和3周年を迎え、純潔な真の家庭のメッセージを市民に伝えるための「2015家和萬事性キャンペーン」が、「私から始まる健康な性、幸福な家庭」というテーマで3回にわたって成和学生、CARP会員、一般市民など延べ1,000人余りが参加して成功裏に開催された。

第1次キャンペーンは天曆6月3日(陽曆7.18)、九里・南楊州・加平地域の成和学生49人を中心に九里長子湖公園で行われた。キャンペーンに先立ち、イ・ジョンヒョンチーム長は「正しい性の価値観と幸福な家族」というテーマで教育した。

成和学生は愛のプレスレット作り、綿菓子、家族アンケートパネル、インスタントカメラ撮影、家族葉書作り、家族風船配り、幸福な家族署名、ラプリー水タトゥーなど八つの体験ブースを設置して、キャンペーンを進め「健康な性が幸福な家族を作る近道」というメッセージを伝え、400人余りの市民がキャンペーンに参加した。

第2次キャンペーンは天曆6月10日(陽曆7.25)、麗水・光陽地域の成和学生52人が参加して、麗水亀甲公園で行われた。第1次キャンペーンと同様に8つの体験ブースを中心に広報チラシを配り、市民にキャンペーン参加を促した。この日は雨が予報されていたが、天の祝福の中で天気はいつになく晴れて成和学生の積極的な活動の中で350人余りの麗水市民がキャンペーンに参加した。

第3次キャンペーンは天曆6月18日(陽曆8.2)、CARP会員15人を中心に孝昌公園と淑明女子大学近くの地域で実施した。第3次キャンペーンでは、ブースプログラムではなく、「家族アンケートパネル」を持って街に出かけ「健康な性と幸福な家庭」というメッセージを伝える活動に重点を置いた。250人余りの市民がキャンペーンに参加した。キャンペーンに参加したシン・イェジュ成和学生は「ウェットティッシュと一緒に『家和萬事性キャンペーン』メッセージを市民に伝えた。キャンペーンが進むほど面白かった。将来、神様を中心に真の愛を実践する美しい家族を作りたい」と参加の所感を伝えた。

チン・セツビョルCARP会員は「健康な愛、幸福な家庭のために『家和萬事性』を叫ぶのは真の父母様の思想をそのまま実践することなので、活動していて嬉しかった。キャンペーンに参加し、純粋な愛の思いを確認することができて良かった」と所感を伝えた。

青少年仮想統一発表大会及び統一写真公募展開催

2015青少年仮想統一発表大会が「2015全国成和キャンプ」期間中の天曆6月24日(陽曆8.8)、世界平和統一家庭連合と青年連合が共同主催して、世界ジャンボリー修練場講堂で開催された。脱北青少年クオン・ウンビョル氏の講演を皮切りに、予選を通過した5人の成和学生が仮想統一発表コンテストに参加し、統一韓国の明るい未来を準備するための課題を共有する時間を持った。文相弼青年連合会長は審査評で、「成和学生がこのように南北統一について深く考えていることに感心した」と総評し、「これから成和学生がますます統一に対する熱望と信念を持って、南北統一を陣頭指揮することができる指導者になり、統一韓半島の主役になることを望む」と統一一家の子女が南北統一の夢と希望を持って成長することを要請した。

この日の発表大会に参加した5チーム6人の参加者は、「統一で新しく書く韓半島」(チョ・イェジン、ホン・ジュヨン)、「文化でコミュニケーションする統一韓国の未来」(イ・ヨンジョン)、「社会文化から見た南北統一の未来」(イ・ソジョン)、「真の愛で一つになるその日まで」(ユ・ボムム)、「当たり前につながる私たちの統一」(キム・ヒェラ)などのテーマで発表した。特に最優秀賞を受賞したチョ・イェジン、ホン・ジュヨン学生は、それぞれ韓国と北朝鮮の服装を着て注目を集め、韓国と北朝鮮の経済比較を通して統一後の経済問題を診断し、北朝鮮の経済活性化と寄付文化、ボランティア活動などの解決案を導出し多くの支持を受けた。ラ・フニル韓国CARP局長は「南北統一と成和学生の姿勢」というテーマの講演を通して、真のお父様の韓半島統一のための摂理史的路程を説明し、南北統一の必要性とその準備のための青少年の役割について見解を明らかにした。この日の大会は発表した成和学生だけでなく、聴衆全体が近づく統一時代に対して深く考える意味深い時間だった。

一方、青年連合は真のお父様天宙聖和3周年記念事業の一環として、第1回統一写真コンテスト(以下、コンテスト)を進めている。コンテストは「2015民間統一運動活動支援事業」に選定され、大賞には150万ウォンの賞金と統一部長官賞の特典が与えられ、総20点の作品表彰と一緒に総600万ウォンの賞金が授与される予定である。

青年連合は、今回の統一写真公募展で、私たちの社会が統一の波に乗って新たに変化する韓半島を夢見ているだけに、統一未来を導いていく青年の視点で統一を眺める必要性を認識し、これを通して統一運動の現状を点検して、新しい方向性を設定するためにコンテストを企画した。〈記事提供:青年連合〉



1.家族アンケートパネルを進める成和学生とキャンペーンに参加した家族
2.正しい性の価値観と幸福な家族に対する事前教育を進めるイ・ジョンヒョンチーム長
3.2015家和萬事性第2次キャンペーン終了後、団体記念撮影



み言葉を抱いて世界に宣教基盤拡大し摂理発展の大きな柱担当

文鮮明天地人真の父母宇宙聖和3周年を迎えて本紙は、母の国・日本が神様の解放と人類の救いのための摂理を導いて行かれる真の父母様に侍り、世界摂理のために貢献した歴史を上編と下編に分けて要約・整理し紹介したいと思う。特集3号下編ではみ言葉を抱いて世界に出、宣教基盤を拡大して摂理発展の大きな柱を担当した日本教会の歴史を整理した。

み言葉を抱いて世界に日本宣教の先鋒に立つ

わずか半世紀で世界的な宗教団体に成長した統一教会の発展史を振り返ってみると、一つの特徴的な現象を見ることができる。それは韓国や欧州の一部を除いて、世界各国で統一教会の発展に日本食口が深く関与しているという事実である。アジア、南米、中東、アフリカ、オセアニアなど草創期の教会食口はほとんど日本食口によって伝道されたり紹介を受けて祝福結婚を受けたのである。

米国でも1970年代日本から派遣された食口が宣教活動支援に乗り出して伝道活動に投入され、教会発展の一つの柱をなした。信仰の祖国・韓国でも1990年代以降、韓国人と祝福を受けた数千人に及ぶ日本婦人が教会活動に大きな役割を果たしたというのが定評である。

実際に韓国の地方教会を訪問してみると、むしろ地元食口が恥ずかしくなるほど流暢な韓国語を話す日本女性が多い。彼女らの献身的な努力と活動は、韓国教会の運営と摂理的活動に大きく寄与している。

真の父母様は公式的に日本を世界救援摂理の「母の国」に選ばれ、その位置と役割に対する意味を付与されて、「皆さんは、最後に世界万民を抱いて産み直さなければならないエバ国家の使命を持つ国民です」と言われ、日本食口の世界的貢献に対する使命とその業績について高く評価された。

本格的な海外宣教の開始「その国の祖先になれ」

1975年は第3次7年路程の初年度で、世界摂理出発の年だった。真の父母様は第二次世界大戦の怨讐国だったが、その後、最も大きな発展を遂げたアメリカ、ドイツ、日本の3か国から各1人ずつ3人を一組として、世界120か国に派遣し、世界宣教を担当させた。真のお父様は「第3次7年路程の意義」を説明し、世界宣教の必要性を強調され、宣教師は「1975年4月末まで責任を引き受けた任地国に出発しろ」という指示を受けた。

日本宣教師の苦痛が始まった。当初は漠然と「5年程度」と宣教期間を予想

していたが、彼らの中には長くは20年以上、アフリカや中東で宣教活動のために滞在した宣教師もいた。そして、当時「殉教者が出るなということはない」という懸念は現実には近づいた。1980年12月18日、笹本宣教師が宣教国タンザニアで殉教した。

真の父母様は笹本氏を「殉教者」と認めて、世界各国で彼のために追悼礼拝をするように指示された。当時、米国で真の家庭に侍っていたハマサカ・ミホコ氏は1975年のある日、真のお父様が次のように語られたと言う。

「先生は、机の上に伏せたまま、夜も寝たことはありません。地球の反対側で先生に送る食口の祈りを聞かなければならないからです。先生にだけこっそり報告をした後、命をかけて共産主義国に伝道に行き、誰も知らないうちに死んでいった食口もいます」

そう語られる真のお父様の背中には震えていたと言う。宣教現場で生死をかけて献身する宣教師を考え、深い痛みを流されたのである。

国家メシヤと女性宣教師派遣

共産主義が崩壊して冷戦が終結した後、世界は新たな次元の問題に直面した。自由と民主主義が拡大しイデオロギーを中心とした国家間の紛争は減ったが、相対的に民族と宗教、人種をめぐる葛藤が激化した。

変化した世界情勢に合わせて、世界平和のための新しい次元の努力は、女性運動で最初に現われた。1992年4月、真の父母様は世界平和女性連合を創設し、平和運動の中心に立たれた。女性連合創設2年後の1994年から専門学校、短期大学、4年制大学卒業資格を持つ日本女性1,600人が、世界160か国に10人ずつ派遣された。

1,600人の日本女性は、派遣された国でボランティア活動や文化行事などを通して、着実に現地に定着していった。真のお父様は、より本格的な世界戦略を実行するための次の段階を踏んでおられた。それがまさに「国家メシヤ」による摂理だった。

国家メシヤ摂理は任地国の情勢や現地の統一運動の基盤に従い、様々な形態を帯びて進展していった。1990年代後半、真のお父様の摂理観は明らかに世界に照準が当てられていた。そこで、国家メシヤを後援することができる宣教師が日本から世界へ次々と派遣された。最初の目的地は南米であった。真のお父様は、1996年11月、4,200人の日本女性を宣教師として、米国とカナダをはじめ、中南米33か国に送られた。(6面に続く)



1.宣教師修練会での祈祷会の様子(1975年4月、三浦半島)
2.イスラム国スーダンで新年を迎える宣教師と現地食口ら
3. 真の父母様賞(海外宣教21年功労賞)を受賞した宣教師ら(1996年1月1日、米国ニューヨーク)

宗教和合運動と日本宣教師の貢献

真のお父様の摂理観によると、米国は2,000年の新約キリスト教を代表した国として、成約の再臨摂理を受け入れなければならない立場にある。世界救援のために摂理的に必ず必要な柱となるべき国であるため、どうしても米国に強力な教会基盤を作らなければならなかった。2000年4月、日本の大学卒業の学歴を備えた女性が、韓国清平修練苑で開催された21日修練会に2度に分けて参加した。その後、最終的に選抜された500人は、米国宣教に投入された。7月4日米国の独立記念日にあたって、真のお父様が直接参観される中で、任地抽選が行われ、米国50州にそれぞれ任地が決定された。日本女性宣教師の継続的な労苦と努力は、ついに実を結び始めた。米国のキリスト教指導者らが大挙韓国を訪問する超宗教及び超宗派運動プロジェクトが実施されたのである。米国聖職者訪韓団が釜山ボムネッコールを巡礼した時に受けた啓示をきっかけに、2000年5月、米国聖職者指導者会議(ACLIC)が設立された。これにより、新約摂理と成約摂理が互いにかみ合うことができる基盤を整えることができるようになった。翌2001年2月から2ヵ月間に渡って、真の父母様の「米国50州巡回講演」が、キリスト教の聖職者の積極的な支援と後援の中で進行された。当時、知り合ったキリスト教聖職者は、「私たちは立ち上がる(We will stand!）」というスローガンを掲げて、「米国が神様が願われる摂理国に再び立つようにする」という強い意志

を表明した。

このように巡回講演を成功裏に終えた土台の上で、同年5月27日「60双超宗派聖職者祝福結婚式」が行われ、カトリック、プロテスタント、イスラムなど様々な宗教的背景を持つ聖職者が真の父母様の祝福を受けて、新しい祝福結婚を誓った。また2002年4月27日、米国ワシントンDC郊外にあるホテルで「14万4千双超宗教超国家聖職者祝福式」が盛大に行われた。

世界の辺境を「勝利的聖地」に

世界各地で国家復帰のために活動した日本人国家メシヤ活動の転換となったのは、1999年7月下旬だった。真の父母様は「日本人国家メシヤは、田園パラグアイのオリンポスに集合して8月1日から40日特別修練会を開催する」と言われた。この修練会の正式名称は「パンタナール開発特別40日修練会」だった。修練会期間中、真のお父様は頻りに修練生を訪問してパンタナール環境保護と開発に対する内容を中心に多くのみ言葉を語られた。第1陣がレダに入ったのは1999年10月である。レダ開発について真のお父様は、具体的に①飲料水、②養殖、③観光を主なテーマに、具体的な目標を提示された。真のお父様はレダ開発を「日本の蕩滅復帰」とその意味を付与し、国家メシヤに悲壮な気持ちで決意するように促した。

パラグアイの奥地であり僻地であったレダは、徐々に人間が定着し生活できる環境に変化し始めた。そして、

2000年から「青年自願奉仕隊」を迎えるようになった。毎年8月に日本とアメリカの大学生がレダに来て10～20人のチームを組んでインディヘナ村を訪問し、その子供や村の人々と交流したり、教育支援・文化交流事業を展開している。

真のお父様はパンタナールのビジョンと希望、その偉大さ、そして自然環境保全の必要性とそのための実践方案などを強調した。真のお父様のビジョンを実現するために取り組んできた国家メシヤの精誠と努力で、国すら放棄し放っておいた奥地であり僻地が、すべての人々が喜ぶことができる祝福の地に変わり始めた。明らかに時間はかかるだろうが、「勝利的聖地」の基礎の上に、14年間ひたすら投入された精誠と努力で、その基盤が徐々に築かれている。

世界平和の近道は国際祝福結婚

真のお父様が推進して来られた国際祝福結婚式は、「理想家庭を通じた平和世界の実現」というビジョンを抱いている。真のお父様の自叙伝『平和を愛する世界人として』にもこれに関する内容が紹介されている。「世界平和とは、それほど途方もないものではありません。家庭が平和であれば、社会が平和になり、国家間の葛藤が消え、それがまさに世界平和につながります。だから完全な家庭が重要であり、家庭の責任がそれだけ大きいのです」(251ページ)

その中でも、異なる国、異なる文化、異なる人種間の

結婚が平和な世界を実現する鍵であることを強調している。

「結婚は二人がするものですが、結局、二つの家が縁を結ぶのであり、さらに二つの氏族、二つの国家が和合するのです。相手の異なる文化を受け入れ、歴史の中で結ばれた恨を克服し、ひとつになっていくのです。韓国人が日本人と結婚すれば、韓国と日本が和合するのであり、白人が黒人と結婚すれば、白人種と黒人種が和合するのです。また、彼らが産む子供は二つの民族の血を同時に受け継いだ和合の人間であり、白人と黒人を超える新しい人種の始原となります。このように数世代だけ過ぎれば、国家や人種間の分裂や反目がなくなり、全人類が一つの家族となって平和な世界を作ることができます」(251ページ)

こうした真のお父様の家庭観と平和観、世界平和のビジョンは、根本思想である「統一原理」に由来したものである。こうした真のお父様の思想を十分に理解し、そのビジョンを実現するために、国際祝福結婚式に、日本の教会食口が大挙同参した。

彼らは「世界平和を実現できる近道はただ、国際祝福結婚」という確固たる信念を中心に、その実践のための歩みを止めていない。特に日本女性は、他の民族や国家の人と会って祝福結婚をし、夫の国に定着して真の愛を積極的に実践しながら、モデル的国際祝福家庭の位相を高めている。〈出処：『真の父母様の摂理の足跡;日本I』〉



1990年代半ばグラナダで活動する国家メシヤ、宣教師、平和大使



家庭連合日本-中南米女性指導者姉妹結婚(1996.11.24)



レダ開拓を始める前に現地視察される真の父母様(1999年9月21日)



ルゴ・パラグアイ大統領と記念撮影するレダ青年自願奉仕隊